

平成29年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	幸区第2グループ(南加瀬・小倉・北加瀬)	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績		H28	H29		H28	H29
	1 南加瀬こども文化センター ①年間延べ利用者数	32,684人	26,839人	②年間延べ利用団体数	579団体	533団体
	2 南加瀬小学校わくわくプラザ ①登録者数	209人	237人	②年間延べ利用者数	11,424人	12,787人
	3 夢見ヶ崎小学校わくわくプラザ ①登録者数	182人	163人	②年間延べ利用者数	13,796人	13,725人
利用実績	1 小倉こども文化センター ①年間延べ利用者数	32,401人	30,696人	②年間延べ利用団体数	241団体	252団体
	2 小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数	234人	267人	②年間延べ利用者数	16,782人	16,835人
	3 東小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数	255人	256人	②年間延べ利用者数	16,777人	21,150人
	1 北加瀬こども文化センター ①年間延べ利用者数	31,985人	29,391人	②年間延べ利用団体数	125団体	144団体
利用実績	2 日吉小学校わくわくプラザ ①登録者数	539人	569人	②年間延べ利用者数	32,817人	35,467人
	収支実績	単位:円				
	1 収入 指定管理料	147,390,227				
	2 支出 人件費 管理費 事務経費 その他経費 合計	115,986,201 10,236,293 7,405,624 8,045,256 141,673,374				
3 差引	5,716,853					
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスクールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。					

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・グループ合同行事では、新たな取組として、地域連携や多世代交流を目的に、「トリプルハッピーフェス2017」を実施した。こども文化センターを利用している運営協議会やボランティア協力の下、ダンスや昔遊びの体験コーナー等、様々な内容の事業を実施した。乳幼児から成人までや168名の参加があり、多世代交流が図られた。 ・小倉こども文化センターでは、新たな取組として、宿泊を伴う野外活動を単館で実施し、28名が参加し、火おこし等の体験を通じ、子どもたちの繋がりが深まった。 ・北加瀬こども文化センターでは、卓球デーを設定したことにより、中学生の夜間利用が昨年度と比べ54人増加した。 ・日吉小学校わくわくプラザでは、新たな取組として、「こんちゃれ」を実施した。「わりはしダーツ」等のメニューを毎月実施し、延べ727人の児童が参加し、目標をもってチャレンジする大切さを学んだ。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切に図られているか。			
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
	保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケートを通じて、利用者ニーズ把握に努め、施設利用ルール改訂や購入図書に反映した。特に、グループ共通の取組として、幼児ルームに利用者が気軽に書き込める「つぶやきノート」「自由ノート」を置くことで、ニーズ把握に努めている。特に小倉こども文化センターでは、「飲食スペースのテーブル」を増やしてほしいという要望があったため、幼児用のベンチとテーブルを設置するなど、運営改善などに意見を反映している。 ・特別な配慮を要する利用者への対応として、「特別な支援を必要とする子への対応研修」等、職員の資質向上を図るとともに、個別記録ノートを作成し、スタッフ全体で情報共有が行われているとともに、学校や保護者との連携を取りながら対応している。 ・学校及び行政機関との連携について、近隣の介護施設やNPO法人、小学校と連携し、特色ある事業を実施した。特に、北加瀬こども文化センターでは、新たな連携先であるNPO干潟ネットワークと「干潟であそぼう」を実施し、干潟や生き物について学ぶとともに、得た知識を他の事業に活かした。 ・施設・事業の広報については、ホームページやおたより等多様な媒体を用いて積極的な広報を行っている。また、中学生・高校生・高校生向けたよりを発行するなど、対象年齢を捉えた広報を行った。特に、小倉こども文化センターでは今年度新たに近隣の幼稚園、保育園へこども文化センターだよりの配布を始めた。また、幸区では、イベント内容により複数の施設を利用する方が多いため、各館に幸区6館のパンフレットを色分けして常備し、館を超えた広報を行うなど地域特性に応じた工夫を行っている。 ・運営協議会の実施について、運営協議会が設置され、「事業計画」どおりに開催されている。 ・保護者懇談会の実施について、懇談会が定期的に開催され、保護者の要望を把握している。					

組織管理 体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。特別な配慮を要する利用者についても、状況に応じた人員配置ができています。 ・職員の研修体制については、運営法人の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修が行われていた。また、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化し、職員が閲覧出来る等、共有化の仕組み作りが出来ている。さらに、小倉こども文化センターでは、「野外活動事前研修」を実施し、火おこしやハイキングについての注意点や子どもたちへの指導方法を学び、「おぐらっこキャンプ2017」の実施に活かされた。 ・個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 					
適正な業務 実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	4	4
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	4	4
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。南加瀬こども文化センターでは、新たにカーテンで区切られた授乳スペースを設けるなど、市民サービス向上を図っている。 ・利用者の安全確保については、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、実際の事故やヒヤリハット事例をもとに法人本部で「事例検討シート」を年2回作成し、館長会議、各館での職員会議、スタッフ会議と三階層において議論を重ね、そこで得られた対応策を集約して共有するなど、職員等の資質向上を図っている。また、催涙スプレーの設置場所の確認や発電機を使用する等、実例を交えた研修を実施しており、利用者の安全を確保するため、職員の意識づけが図られている。 ・防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。特に、告知なしで避難訓練を実施することで、子どもたちと避難経路を確認している。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。</p> <p>・委託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している、市内20グループの指定管理を行うスケールメリットを活かし、全グループ合同行事、区合同行事等に加え、各館独自の事業、新規事業等、豊富な行事を行った。運営協議会や地域ボランティアの協力を得て、様々な事業を行う等、地域に根差した事業を行っている。また、各種研修に参加し、職員の資質向上に努め、良質なサービスを提供している。</p>

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子ども顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。</p>
--